

都市再生整備計画事業 フォローアップ報告書
宮若地区(第三期)

令和8年2月

福岡県宮若市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価						フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み	理由	改善策の方向性						
指標1	身近な憩いの場やレクリエーションの場としての公園や広場についての満足度	%	22.4	32.0	29.5	確定 ● 見込み	△	あり ● なし	32.7	R7年10月	○	事後評価時点で整備途中となっていた事業が完了したことで、計画一体の整備内容が評価され、満足度が上昇した。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	「新庁舎前連携交流広場整備事業」に続き、市役所へのアクセス道である「片鉾・天王寺線道路改良事業」や「筑前宮田駅跡広場整備事業」の完了により、憩いの場、レクリエーションの場、そのアクセス性の整備が評価れさ、目標値が達成された。		
指標2	公共施設の利用者数	人/年	209,524	215,312	198,309	確定 ● 見込み ●	×	あり ● なし	184,593	R7年7月 (R6年度値)	×	社会情勢の変化も加わり、減少した利用者の回復が想定より鈍化している。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	公共施設やアクセス道路の整備に伴い、令和2年度以降、公共施設の利用者は回復傾向にあるものの目標達成には至らなかった。一方で、近年の利用者増加が確認できており、中心拠点としての利便性向上や効果の波及が期待できる。		
指標3	身近な道路の歩きやすさや交通安全対策と自動車などにより日常で利用する生活道路の整備についての満足度	%	29.7	35.0	35.0	確定 ● 見込み	○	あり なし	-	-	-	-	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	-	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	-	-	/	-	確定 見込み	/	/	-	-	/	-	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	-
その他の数値指標2	-	-	/	-	確定 見込み	/	/	-	-	/	-	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	-

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために行う方策	中心拠点の賑わい持続	中心拠点、中心市街地の賑わい創出のため、各種イベントの実施(ヒガンバナまつり、宮若市文化祭等)を実施した。	イベント等への来場を目的とした来街者の誘致が進み、地域の賑わいや満足度の向上に繋がった。	賑わい創出に資する各種イベントを継続的に実施するとともに、市内外へ向けた魅力の周知が求められる。
	地区の住環境維持	地区内外を通る「宮田・尾勝線」や「宮田・三坑線」をはじめ、生活を支える各種道路の整備が進められた。	継続的な道路整備により、経年劣化した道路の改善等、道路環境の向上が図られた。	引き続き都市計画道路をはじめ、地区の生活を支える道路の整備が求められる。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	交通・周遊機能の強化	各種道路整備に加え、「宮若市地域公共交通計画」を策定し、交通・周遊機能の強化に資する取組を進めた。また、ウォーキングイベント(みやわかウォーク等)を実施した。	計画策定により、市内の周回・交通ルートの検討が図られたとともに、交通機能向上の方向性が示された。また、市内周遊を誘導するイベント実施により、賑わい創出につながった。	計画に沿った各種取組の実施と継続的な道路環境の整備のほか、イベントの実施や地域資源を巡る周遊ルートの周知が求められる。
	地域住民の満足度向上	「宮若ふるさと祭」や「ランタンナイト」等の祭りやイベントの実施及び開催支援を行った。	来街者の誘致とともに、地域住民が参加できるイベントの開催により住民満足度の向上に繋がっている。	継続的な祭り・イベントの開催のほか、地域住民が主体となった新たなイベントや取組の開催支援が求められる。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
まちづくりに関する情報周知	・市が実施している各種事業・取組に関して、日常生活に係る事業の概要や事業効果について、市民にわかりやすく伝えるため、必要に応じ広報による周知、パンフレット等の作成を検討する。 ・市民に事業効果を伝えることにより、まちづくりへの興味と賑わい創出の実感を喚起する。	令和8年度以降	・整備箇所、内容の認知が進まないことが利用者が増えない一因と考えられる。そのため、広く市民の目に留まる媒体(SNS等)を活用し、まちづくりに関するイベント・取組、施設の利用方法等について周知を図る。
協働によるまちづくり・賑わい創出	・地域住民や商工会等と連携し、まちづくりに係る取組・イベントの開催を図る。	令和8年度以降	・実施に向けて必要となる手続きや開催地の検討等を行政が担い、運営は商工会等が担う等、役割を分担することにより施策の推進を図る。